

		<p>なく、このような場合に駆け込める場所が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おむつ替え台は広いスペースが必要なため設置は難しいとは思いますが、設置がなくても替えられるように職員に対応してもらっただけでも助かると思う。 ・建設当時に設置スペースを確保していなければ、設置は難しいと思われるが、けやき館や新庁舎などの新しい施設には設置する。 ・今後は、費用的な問題もあるが、改修時に担当課に働きかけていくことになると思う。 ・設置がない場合に、窓口に言っていただき、スペースがあれば対応できるようにしたいと思う。
(子育て応援課長)		
(委員)		<p>新庁舎に、1箇所でも、障がい児や高齢者が使えるユニバーサルベッドが置けるトイレがあれば、バリアフリーにもつながるのではないかと思った。</p>
(子育て応援課長)		<p>今回の質問回答は子ども・子育て会議を踏まえての回答のため、そのようなものがあるか確認する。</p>
		<p><u>放課後の居場所について（学童、放課後子ども教室、図書室解放など）</u></p>
(委員)		<ul style="list-style-type: none"> ・不審者情報は頻繁にあり、ふるさと思い出館までも遠い。 ・放課後に子どもが学校から出ずに過ごすことができれば、働く母親が帰るまで学校にいれば安心であり、子供に鍵を渡す必要もなくなるが、図書室開放は難しいのか。
(委員)		<ul style="list-style-type: none"> ・施設自体は開放できるが、安全管理をする職員がいない。 ・放課後子ども教室のスタッフが対応して実施するというのであれば構わないと思うが、出欠確認等が必要になる。
(委員)		<p>放課後子ども教室を実施しているので、その関連で対応できないか。</p>
(子育て応援課長)		<p>社会教育課長に確認する。</p>
(副会長)		<p>子どもを一人で帰すことが安全かどうかの問題も出てくるかもしれない。</p>
(委員)		<p>学童クラブに近いので、集団で帰す学童の波に乗れば</p>

	<p>(委員)</p> <p>(子育て応援課長)</p> <p>(事務局)</p> <p>(委員)</p> <p>(子育て応援課長)</p> <p>(委員)</p>	<p>よいのではないかと思った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福生には補助金によって運営されている「ふっさっ子」という、申し込まなくても放課後に子どもをみてもらえる事業があるようだが、町でも実施できないか。 費用のこともあり、福生で実施できても、町で実施できるかどうかという問題がある。 社会教育課推進係に確認したところ、福生ではシルバー人材センターや高齢でリタイアした方などを募り、委託として依頼しているということだった。 ・自由意見欄には、移動児童館を実施しているが児童館が1館しかないため、日々利用できる場所がほしいという意見が多くあった。 ・雨の時は図書室開放、晴れの際は校庭開放など、他学年でも多くの子どもが放課後の居場所として利用できるもので、町でも実施できればよいと思う。 ・児童館までの距離も遠く、学校に見守りがいて子どもが安全に過ごせる場として検討してもらいたい。 ・検討してもらうためには、どこに要望を出したらよいのか。 ・子育て応援課であれば学童や児童館、社会教育課であれば放課後子ども教室である。 ・児童館は一度自宅に帰ってから行くため、そのまま学校に残るという方法もあると思う。 ・どのような形にするのかについては、検討することになると思う。 ・「ふっさっ子」があるから、学童に入れずに安心して仕事ができるという話も聞くため、そのような形で実施したいという思いもある。 ・三小は参加率が高く容量が不足しているため、安全確保できないという理由から学年を絞って実施している。 ・町の放課後子ども教室は、工作教室として人数を絞って指導するという形で始め、今でも大人数を受け入れられない状況となっている。 ・放課後子ども教室に対する意識は変わってきたが、学童保育と混同している母親もいる。学童と異なり、スタッ
--	--	---

	(委員)	学童に在籍し、放課後子ども教室にも来る子どもの名簿を作成し、学童に出向いて実施内容・予定・連絡先を説明するなど情報提供している。
	(副会長)	<ul style="list-style-type: none"> ・教室に放課後子ども教室の日程を掲示しているが、学校では全員を帰さなければならぬため、把握は難しい。 ・親と会話がしっかりできていれば、子ども自身がどこに行くか分かっているが、分からない子どもは多い。
	(委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後子ども総合プラン開始時から、学童と放課後子ども教室の連携は平行線のままだが、担当を1つにできないか。 ・10年ほど実施しているが、達成度がCのままで、BやAにするための動きがあまり見られない。
	(委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・親にとっては子どもがどうしたら放課後を安全に過ごせるかどうかであり、どこが担当かは考えていない。 ・不審者についても、今日も不審者情報がきたが、実施しているパトロールとはどのようなことをしているのか。 ・子どもは今日学童だと言われても、放課後子ども教室に友達が行くのなら行ってしまうもの。大人の都合で実施するのなら、学校の中に学童を作り、学校内で全て完結させることはできないのか。
	(委員)	学校にまとめることは、容量がなく難しい。
	(子育て応援課長)	二小や五小の校舎は問題になっている。二小は施設老朽で今後新設や移転を考えているが、費用のこともあり、全学校で実施できるとは言えない。
	(委員)	高校の夜学などのように、同じ教室を学童に使用できないか。
	(子育て応援課長)	<ul style="list-style-type: none"> ・学童の空調の故障により、四小の教室をお借りしたが、部屋を空けるために四小に動いてもらわなければならなかった。 ・五小は4月から1年生の増加で1クラス増えるため、対応を検討しており、学校のスペースとしても厳しい問題である。
	(委員)	立川の小学校では、校舎とは別で校庭内に学童を設置している。
		<ul style="list-style-type: none"> ・プレハブであっても、子どもたちが安全に過ごせる所で

		<p>あれば、検討できる余地があるのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後子ども教室もまとめて実施し、学童とも重複しない子どもだけが新たに来るような形にすれば、安全管理もしやすくなる。 ・学童と放課後子ども教室のスタッフ同士が、実施日に協力し合うことで人も増えるため、実施できるのではないか。 <p><u>子どもからの相談体制の充実について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひばりへの周知と記載されているが、子どもたちに何かあったらひばりに相談するよという形での、学校で周知をしているのか。 ・子ども家庭支援センターは小さい親子が利用するイメージが強いが、周知により、小学生などからの反応はあったのか。 ・教育相談室の相談件数は395件という回答で、相談数が多いと思うが、担当は指導課か。 ・平成30年に各小中学校全員に、作成したチラシを学校に配布した。 ・小学生の前年度相談実績はなく、平成30年度に3件児童本人からの相談があるが、件数には高校生が含まれている。 ・教育相談室は指導課の担当である。 ・子どもからの相談は、子どもと近い学校の先生が受ける体制を厚くしていくのが一番ではないか。 ・学童や児童館の先生、またコミュニティセンターの職員にも協力してもらえたらよいと思う。 <p><u>人材リストについて</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・お知らせなどを配布や置いておくだけではなく、もう少しマッチングしやすいように活用できないか。 ・直接相談しようと思っても、スカイホールに申し込んで返答を待つというのは手間である。
	(委員)	
	(子ども家庭支援センター係長)	
	(委員)	
	(委員)	

		<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを見ても、文字で簡単な記載があるだけである。人材リストを見て何が出来るかイメージでき、人材を年間通して生かせるように、登録者数やイラスト等を掲載するなど工夫してもらいたい。 <p><u>障がいのある子どもを持つ親を対象とした子育てサロンの推進について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由意見に、子どもに障がいがあるとき、誰に相談してよいのか、同じ悩みを持つ親と知り合いたい、様々な情報を得たかったという意見があった。 ・認知症のオレンジカフェなどがあるが、同じように障がいのある子ども向けの実施できたらいと思うので、検討してもらいたい。 <p><u>障がいのある子どもをもつ親への支援について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校から、病院で診断を受けるように言われることがあるようだが、先生の発達障がいに対する知識等が不足しているのではないかと感じた。 ・特別支援学級に行っているのに、何かあるとすぐ連絡が入るようだが、特別支援学校に行ったらよいのか、先生からのアドバイスもあまりないようである。 ・広汎性発達障がいなどの子どもが増えているため、知識や実務的な研修を増やしたらよいのではないか。 ・子どもの障がいに気付くのに時間がかかったり、家と学校での姿が異なることもあるため、先生に知識や経験があると、障がいに気づきやすくなり対応することができる。 ・病院で問題ないと言われた場合は、かえって親が困ってしまうこともあるようだ。 <p>(委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回答にもあるように一昨年に特別支援教室を各校に設置し、特別支援コーディネーターや特別支援教室専門員など人的にも充実させている。 ・一般教員にも年1回は必ず広汎性発達障がいの研修を実施している。 ・今の意見から、不安に思う方が個々に相談しやすい体制
--	--	--

		<p>を整えることも必要だと思った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・診断については、本人の傾向が分かると子どもに合わせた指導をすることができるため、学校から声をかけることはあると思う。 ・相談の場としては、学校の他に教育委員会でも教育相談の窓口があるので、利用してもらいたい。 ・スカイホールには教育相談室もあり、子どもや大人の相談を受けている。 ・保育園では研修会もあるが、保育園の障がいの拾い上げはどれほどの精度か。 ・デリケートな問題であり、認めにくい親もいると思うため、専門の方がいて、すぐ拾い上げられるような体制を取ってほしい。 ・石畑保育園の主任が研修を受けて働きかけているようである。 ・保育園が働きかけても本人が行かない場合もあるかもしれないが、障がいのある子どもは18人だけでなく、実際は隠れている人数がいると思う。
	(委員)	
	(委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園ではそのような対応はしているのか。
	(委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・グレーゾーンと思われる子どもは結構いる。 ・指導方法は変えており、難しい子どもは先生を1人つけて別のメニューにし、なるべく集団活動ができるようにしている。 ・東京都から補助はあるが、手帳や診断書が前提で、親の同意書も必要になるため難しい。
	(子育て応援課長)	<p>デリケートな問題であるので、石畑保育園も保護者に時間をかけて働きかけており、現在一番多い人数になっているが、グレーゾーンの子どもはいる。</p>
	(委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・広報に掲載しても全て読めるわけではなく、実施していることを知らないため、何度も働きかけることが必要ではないか。 ・つながりが多い親たちは情報を得やすいが、そうでなければ情報を得づらく、保育園に相談員が来ることが分かれば相談することができる。
	(子育て応援課長)	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的には、就学前の5歳の子どもを見に行くことはあ

		<p>る。保育園等の要望により他の年齢の子どもも見てもらえることもある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・方法の一つとして、委員の皆様からも周知してもらいたい。
	(委員)	<p>保育園から、情報を保護者に伝えてもらうことはできないのか。</p>
	(子育て応援課長)	<p>できると思う。</p>
	(委員)	<p>入園前の1回だけでは忘れてしまうため、年1回などしてもらえないか。</p>
	(子育て応援課長)	<ul style="list-style-type: none"> ・石畑保育園では実施している。 ・保護者に届くかは別問題だが、一生懸命時間をかけながら行っている。
	(委員)	<p>言われれば動く母親はいると思う。</p>
	(子育て応援課長)	<p>声かけをして反応を見るやり取りを繰り返している。</p>
	(委員)	<p>石畑保育園から情報を取得し、他園でも実施してもらえるとよいと思う。</p>
	(子育て応援課長)	<ul style="list-style-type: none"> ・石畑保育園は他園に比べて保育士数も多く、主任の先生が研修等に参加するなどよく知っているため、何かあったときは相談するように、町から他園に働きかけることもある。 ・現在はその連携を強化しているところである。
	(委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の建て替えに向け、コーディネーターが入りワークショップを行っている。ワークショップでは、要望だけではなく、それを実現するために自分たちも協力することが必要で、町からの協力と合わせて協働していくとしており、考え方を変えていかなければと思った。 ・町は人材や予算が限られており、私たちが要望ばかり出しても続かない部分もある。 ・一部の人や団体が頑張っており、目に見えない部分で支えられている部分はたくさんあるが、全体の意識を変える方向で考えていかないと厳しいと思う。 ・ワークショップのように、一般の人たちに自分たちのできることを働きかける場を作るといった視点で考えていくことが必要になると思う。 ・良い案があれば委員の皆さまにも考えてもらいたい。

	<p>(委員)</p> <p>(委員)</p> <p>3 報告事項 (事務局)</p> <p>4 閉会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今回出す案の中に協働という形で、一般の人が協力体制で関われる形を入れられたらよいと考えている。 ・土曜開催で参加できなかつたり、年齢が高い方などが参加していると、意見しにくいこともあるため、ネットが使えたらよいと思う。 ・LINE会社が自治体に無償提供しているが、LINEであれば若者も利用しやすく声も出しやすいのではないかな。 ・意見を出せる場があり、小さなことを拾い上げる場がくれたらよいと思う。 ・アンケートの意見にも、意見を出しても変わらないとあきらめている人も多く、拾い上げたのなら、町でどう改善したか積極的にアピールしてよいと思う。 ・授乳室の設置も、要望に応じて設置したと知らせるなど、自分たちの意見が届いた達成感があると次も参加しやすくなると思う。 <p><u>(1) 今後のスケジュールについて</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回開催は令和元年11月26日(火)午後6時30分からを予定している。 ・会議内容は現行計画の上半期の進捗管理、第2期計画修正案、新放課後子ども総合プランの修正案。 ・新放課後総合プランは11月会議時点で少し意見をいただきたいとのことで、社会教育課推進係が出席する。 <p><u>(2) その他</u></p> <p>開催通知をメールに変更するというご意見があったが、これまでどおり書面で郵送させていただきたい。検討したが、郵送は確実に届き、皆様の受信環境が同じでないためである。今後、急遽変更等があれば、メールや電話での連絡を検討させていただきたい。</p>
--	---	--